

3Ds Approach 導入の実際

3Ds Approachは、特別支援教育、放課後デイサービス、児童発達支援、塾、就労支援など、子ども支援の現場で幅広く使うことができます。



- 3Ds Approachにより、子ども個人、環境、子どもと環境の関係性の3つの面から、科学的アセスメントをすることができます。
- このアセスメント(特に脳機能モデルによるもの)を利用し、子どもの特性とニーズに応じた効率の良い支援が可能になります。
- 3Ds Approachの研修を受けることにより、支援スタッフは、迷うことなく、最善の支援を実現できるようになります。

3Ds Approachの採用は、事業所の理念、支援の内容に根拠を与え、利用者、保護者、関係者に対する訴求力が高まります。(事業所案内、広報に利用可能)

- 3Ds Approachの支援者トレーニング、管理者トレーニング、専門家トレーニングを受けることにより支援スタッフの専門性が高まるだけでなく、様々なリスクを減らすことができます。
- 専門的なトレーニングを受けられる環境は、支援スタッフにとってのやりがいとなり、事業所の財産である人材を長期にわたって確保できるようになります。
- 3Ds Approachの教室評価、カリキュラム評価を受け続けることにより、質の担保をすることができると共に、第三者機関による評価として、利用者の保護者及び社会全体に対して、広報することができます。



3Ds Approachにより、子どもたちの健全な発達と幸せな未来をエビデンスのある方法で実現することができます。

3Ds Approachの導入で、提供されるもの(※オプション:別料金)

3Ds Approachの理論、3Ds Approachによる環境設定・日課設定・カリキュラム開発の考え方(事業所の理念、ニーズに合わせたカスタマイズをすることが前提)、3Ds Approachによるアセスメント方法(※アセスメント、支援計画作成のウェブシステム)、初期トレーニング、事業所マニュアルフォーマット
※教室評価、e-learningトレーニングシステム、カリキュラム開発のバックアップの継続、データ解析による研究

公益社団法人

子どもの発達科学研究所

TEL & FAX 053-456-0575

<http://kodomolove.org>

info@kodomolove.org

本部

〒530-0001

大阪市北区梅田1丁目1-3 大阪駅前第3ビル267号

TEL 06-6341-5545 FAX 06-6347-1525

浜松

〒430-0929

静岡県浜松市中区中央1丁目3-6 イーストセブン201

TEL/FAX 053-456-0575

お問い合わせは、浜松オフィスへ info@kodomolove.org



(公社) 子どもの発達科学研究所
<http://kodomolove.org/>

3Ds Approach

3Ds Approach

【子どもの発達を科学で支える新しいアプローチ】

脳機能モデル・行動科学・疫学統計学を使い、個人と環境、その関係性の3つのディメンションで評価し支援する

3Dimensions Approach とは・・・

脳機能モデル

個人個人の特性(得意・不得意)を脳機能から分析的に把握する。
子どもの“過去”の学びや体験の影響をアセスメントする

過去

環境

疫学統計学

脳機能モデル、行動科学によって明らかにされたデータを元に、疫学統計学を使って子どもの“未来”を予測する。
最高の未来を作るために、どんな環境が必要なのかを明らかにし、環境に対しても働きかける。

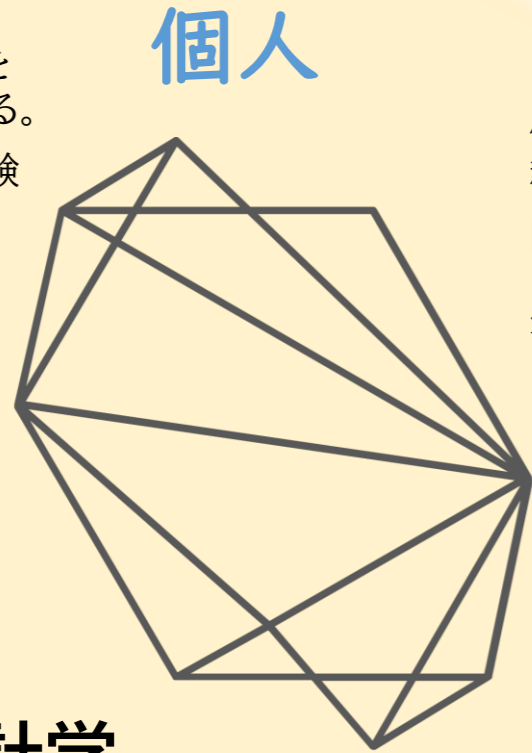
未来

行動科学

個人と環境との関係性を行動科学により分析的に把握する。
関係性は、子どもの“今”を映し出し、今を変える具体的支援方法を提示する。

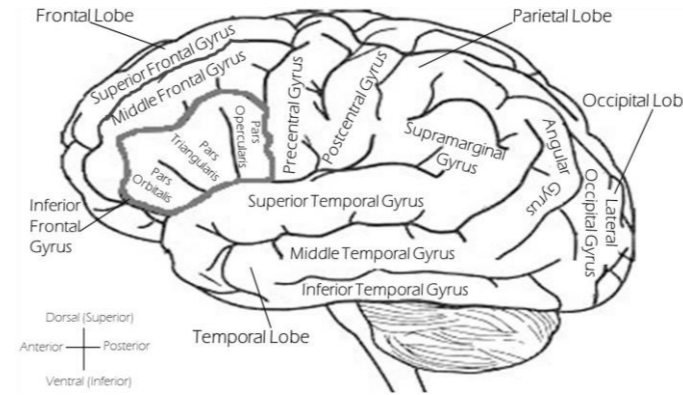
現在

関係性



脳機能モデルの採用

--Brain Function Model--



これまで、発達障がい
は脳機能の障害とされながらも、行動レベルでの診断(例えば、落ち着きがない、集団に参加できない、など)が多く、一般的な発達をする子どもに比べて、マイナス面を捉えることが一般的でした。

3Dsアプローチでは、脳機能モデルを採用することにより、様々な行動の背後にある脳機能の特性(劣っているのではなく、他と違うこと)をアセスメントすることができます。

脳機能モデルを採用すると、子どもの不思議な行動の理由が明確になると同時に、どのようなアプローチをすべきなのかが明らかになります。

脳機能モデルは、全ての子どもをポジティブに評価し、その子どもにあった環境をどう整えるべきかを明らかにします。



3Ds

Approach

3Dsアプローチの革新性

包括的アプローチの具体化

--Comprehensive Approach--



これまで子どもの発達を支援しようとするとき、子どもの障がいそのものへ治療的にアプローチする方法、環境を整えることを重視する方法、子どもの行動を支援していこうという方法など、様々なやり方が開発されてきました。

3Dsアプローチでは、その名のとおり3つの次元による包括的なアプローチを実現します。

3つの次元とは、A 対象児を脳機能モデルで理解して発達を促そうという個へのアプローチ、B 子どもの周りの環境(家庭、学校、地域など)に対して、疫学統計学でそのリスクを判断して整えていこうという環境へのアプローチ、そして、C 環境と子どもの関係性を行動レベルで分析し、支援していこうという関係性レベルへのアプローチを言います。

【3Dsアプローチによってできること】

- ◆ 子どもの得意と不得意を脳機能モデルによって明らかにする
- ◆ 脳機能モデルによって明らかになった子どもの学習スタイルに合わせて、効率的な学びの環境を整える
- ◆ 疫学統計学のデータから、その子どもに合った環境および将来の成功のためにすべきことを明らかにする
- ◆ 支援者・スタッフ・保護者が迷わずにベストな支援を実現する



(公社) 子どもの発達科学研究所 事業概要

当研究所では主に以下の4つの活動を行っています。

発達障がいのある子どもたちの発達支援・教育と就労支援に関する調査研究

発達障がいの早期発見と子育て支援に関する調査研究

こころの成長の正しい理解・啓発のための広報活動

その他社会活動・普及の窓口等への支援

子どもの発達を守るために、私たちは科学的アプローチを重視します。

科学とは、人類の英知の集積であり、科学は使ってこそ、意味があるものです。子どもの発達科学研究所では、世界中の最先端の科学を用い、何よりも子どもたちとその家族の今と未来の幸せを守るために、努力を重ねています。